

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

I. 基本介護技術の評価																				
2. 食事介助																				
No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考	
					全体	特養	老健	訪問介護	全体	特養	老健	訪問介護	レベル1	レベル2①	レベル2②	レベル3				レベル4
1	食事前の準備を行うことができる																1 食事前の準備を行うことができる	○小項目2～4をくると、チェック項目が7つになるため、小項目1～3をくくる。		
くる		① 声を掛けたり肩を叩いたりするなどして、利用者の覚醒状態を確認したか。	2 ・ 3	現認	12.4	3.4	9.1	47.6	90.6	92.9	91.5	77.8	75.4	88.4	92.0	94.2	0.0	①声を掛けたり肩を叩いたりするなどして、利用者の覚醒状態を確認したか。		
		② 嚥下障害のある利用者の食事にとろみをつけたか。			27.3	14.1	21.2	69.9	92.4	93.2	97.0	71.0	80.8	91.0	94.7	94.1	0.0	②嚥下障害のある利用者の食事にとろみをつけたか。		
		③ 禁忌食の確認をしたか。			24.6	19.5	18.8	50.5	72.7	76.4	65.7	66.7	53.2	65.2	78.8	76.0	0.0	○すでに栄養課で準備されていることが多い。⇒最終チェックが必要なのではないか。	③禁忌食の確認をしたか。	
		④ 飲み込むことができる食べ物の形態を確認したか。			15.6	8.8	10.6	48.5	84.0	88.8	80.6	69.8	67.8	75.2	85.6	91.0	0.0	○すでに栄養課で準備されていることが多い。⇒最終チェックが必要なのではないか。	④飲み込むことができる食べ物の形態かどうかを確認したか。	
2	座位で食事をする際の姿勢の介助ができる																—			
		① 体幹の傾きはいいか、足底が床についているか、椅子に深く腰を掛けお尻が安定して座っているかなど座位の安定を確認したか。	2 ・ 3	現認	14.5	7.8	10.1	50.5	77.4	79.4	74.3	74.5	55.9	66.4	81.3	85.2	0.0	⑤食べやすい座位の位置や体幹の傾きはいいか等座位の安定を確認したか。		
		② 顎が引けている状態で食事が取れるようにしたか。			15.1	6.8	10.6	49.5	80.6	84.8	78.0	71.2	51.8	71.7	84.7	88.5	0.0	⑥顎が引けている状態で食事が取れるようにしたか。		
3	寝たまま食事をする際の姿勢の介助ができる																—			
		① ベッドをギャッチアップし、食べやすい座位の位置や安定(体幹の傾きはいいか)を確認したか。② 0.93	2 ・ 3	現認	60.4	54.3	62.0	71.7	81.5	80.2	89.9	60.7	59.1	74.1	79.7	90.3	0.0	—		
		② 利用者の頭部が前傾姿勢になるように枕やクッションで調整したか。			59.6	53.5	61.1	71.7	76.8	77.2	80.2	53.6	50.0	68.9	75.6	86.2	0.0	—		
4	食事介助ができる																○食事の量の記録、水分量の記録は必要ではないか。 ○利用者に合った机や椅子が使用できているかは必要ではないか。	2 食事介助ができる	○チェック項目の順番修正。	
		① 食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行ったか。	2 ・ 3	現認	17.2	8.8	15.4	54.4	63.0	59.4	60.2	68.1	35.6	60.2	62.6	70.3	0.0	①食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行ったか。		
		② 多すぎる量を一度に口に入れなかったか。④0.89			20.9	9.8	15.9	57.3	86.9	88.1	88.0	72.7	69.0	85.6	89.9	89.8	0.0	—		
くる		③ 利用者と同じ目線の高さで介助する等、利用者の飲み込みが確認できるような姿勢で介助を行ったか。④0.86			20.1	9.8	15.9	54.4	83.8	83.2	86.3	72.3	67.2	81.4	80.0	91.1	0.0	③利用者と同一目線の高さで介助し、しっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運んだか。		
		④ 利用者がしっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運んだか。			21.0	10.2	15.9	57.3	87.1	91.3	86.9	72.7	67.2	84.7	89.8	91.1	0.0	—		
		⑤ 自力での摂食を促し、必要時に介助を行ったか。			27.0	30.2	19.2	58.3	73.5	71.3	71.4	65.1	49.1	67.4	75.6	80.1	0.0	④自力での摂食を促し、必要時に介助を行ったか。		
		⑥ 利用者の食べたいものを聞きながら介助したか。			25.0	21.0	16.3	60.2	46.6	40.7	44.3	56.1	24.6	42.7	41.1	56.3	0.0	②利用者の食べたいものを聞きながら介助したか。		
																	⑤食事の量や水分量の記録をしたか。			
5	口腔ケアができる																3 口腔ケアができる			
		① 出来る利用者には、義歯の着脱、自分で磨ける部分のブラッシング、その後のうがいを促したか。	2 ・ 3	現認	23.2	30.4	14.9	50.5	83.5	82.4	83.1	78.4	54.7	81.6	84.8	90.0	0.0	①出来る利用者には、義歯の着脱、自分で磨ける部分のブラッシング、その後のうがいを促したか。		
		② 義歯の着脱の際、利用者に着脱を理解してもらい、口を大きく開けて口腔内に傷をつけないよう配慮しながら、無理なく行ったか。			28.1	29.1	19.7	58.3	82.8	86.3	85.6	67.4	56.9	79.4	85.6	88.5	0.0	②義歯の着脱の際、利用者に着脱を理解してもらい、口を大きく開けて口腔内に傷をつけないよう配慮しながら、無理なく行ったか。		
		③ スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭について、速やかに行い、利用者に不快感を与えなかったか。			32.8	18.9	28.8	65.0	73.6	80.2	71.6	55.6	37.5	69.3	73.1	82.8	0.0	③スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭について、速やかに行い、利用者に不快感を与えなかったか。		
		④ 歯磨きや清拭の後、口腔内を確認し、磨き残し、歯茎の腫れ、出血等がないか確認したか。			14.6	2.9	8.7	53.4	62.0	65.5	58.4	58.3	27.6	58.7	59.3	72.3	0.0	○専門性が高すぎ、ここまでできるのは難しい。⇒未実施率や通過率のデータを見ると大丈夫ではないか。	④歯磨きや清拭の後、口腔内を確認し、磨き残し、歯茎の腫れ、出血等がないか確認したか。	

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

I. 基本介護技術の評価

3. 排泄介助

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考	
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2①	レベル2②	レベル3				レベル4
1		排泄の準備を行うことができる																	1 排泄の準備を行うことができる	
		① 排泄の間隔を確認したか。	2 ・ 3	現認 (必要に応じ記録確認)	8.9	4.4	3.4	32.7	82.8	86.8	81.6	80.6	66.7	74.3	87.6	87.4	0.0	○訴えの出来ない方は確認できないなど利用者それぞれに異なり不要ではないか。⇒必要ではないか。	①排泄の間隔を確認したか。	
		② 排泄介助に当たり、介助内容を伝え、利用者の同意を得たか。		現認	8.6	5.8	4.3	31.1	81.1	80.9	78.9	87.7	62.7	72.9	84.4	88.0	0.0	○「同意」の対応が困難な方も多い。⇒対応が可能な利用者への介助を前提とする。	②排泄介助に当たり、介助内容を伝え、利用者の同意を得たか。	
		③ 利用者のADLを把握し、排泄する上で、できる部分は利用者によってもらうようにしたか。		現認	14.6	18.5	7.2	33.0	79.5	74.9	77.2	94.4	57.1	70.5	83.0	86.5	0.0		③利用者のADLを把握し、排泄する上で、できる部分は利用者によってもらうようにしたか。	
2		トイレ(ポータブルトイレ)への移乗を行うことができる																	2 トイレ(ポータブルトイレ)での排泄介助ができる	
	削除	① 利用者が健側の手足に重心をかけ立ちあがり、身体の向きを変える際、腰を支えたか。③0.86	2 ・ 3	現認	30.3	38.5	22.1	52.9	87.3	91.9	88.9	77.6	68.6	84.2	89.4	91.8	0.0		－	
		② ズボン、下着を下ろす了承を得て、支えながら下ろしたか。			28.4	34.0	21.6	52.9	83.0	82.6	84.0	77.6	66.7	74.8	82.2	91.1	0.0		－	
	くる	③ トイレ(ポータブルトイレ)で、利用者の足底がついているか、前屈姿勢がとれているか等座位の安定を確認したか。			27.7	32.0	21.6	51.9	86.6	92.6	82.2	82.0	70.6	80.8	90.0	90.7	0.0		①トイレ(ポータブルトイレ)で、利用者の足底がついているか、前屈姿勢がとれているか等座位の安定を確認したか。	
3		トイレ(ポータブルトイレ)での排泄介助を行うことができる																	－	
		① トイレ(ポータブルトイレ)での排泄の際、カーテンやスクリーンを使用したり、排泄時にはその場を離れ、排泄終了時には教えてくださると説明する等してプライバシーに配慮したか。④0.85	2 ・ 3	現認	26.5	32.0	20.7	52.0	86.0	88.2	87.3	69.4	83.3	80.8	84.0	90.0	0.0		②トイレ(ポータブルトイレ)での排泄の際、カーテンやスクリーンを使用したり、排泄時にはその場を離れ、排泄終了時には教えてくださると説明する等してプライバシーに配慮したか。	
		② 排泄後、利用者にトイレトペーパー等で拭いてもらい、拭き残しがあれば清拭を行うとともに、利用者の手洗いを見守る等により清潔保持をしたか。			28.9	36.5	20.7	52.9	76.6	74.0	72.1	77.1	63.0	72.3	76.8	81.7	0.0		④排泄後、利用者にトイレトペーパー等で拭いてもらい、拭き残しがあれば清拭を行うとともに、利用者の手洗いを見守る等により清潔保持をしたか。	
		③ 失禁かトイレでの排泄かや、排泄物の量や性状について記録をしたか。④0.88			記録確認	27.7	32.0	21.2	52.9	89.5	91.9	92.1	79.2	81.3	80.6	90.2	95.0	0.0		⑤失禁かトイレでの排泄かや、排泄物の量や性状について記録をしたか。
	削除	④ 事業所・施設内の手順に沿って排泄物を処理したか。	2 ・ 3	現認	26.7	32.0	20.7	53.5	92.2	94.1	95.2	80.9	87.0	88.3	91.6	95.5	0.0		－	
		⑤ 排泄後、利用者の体調確認を行ったか。			28.0	33.5	22.1	53.5	65.1	67.7	60.5	76.6	56.0	51.5	65.6	72.9	0.0		⑥排泄後、利用者の体調確認を行ったか。	
5		おむつ交換を行うことができる																	3 おむつ交換を行うことができる	
		① 利用者に尿意、便意の有無、排泄した感じの有無を聞き、おむつ・パッドを換えることなどの介助内容を伝え、承諾を得ているか。	2 ・ 3	現認	15.5	9.3	10.1	40.0	82.2	81.7	81.8	95.2	67.2	78.0	84.6	85.9	0.0		①利用者に尿意、便意の有無、排泄した感じの有無を聞き、おむつ・パッドを換えることなどの介助内容を伝え、承諾を得ているか。	○通過率が高いが、重要項目として存置。
		② おむつ・パッド交換の際、カーテンやスクリーンを使用する等してプライバシーに配慮したか。			14.7	7.3	10.1	41.0	91.5	95.3	92.5	74.2	90.3	84.3	93.8	93.6	0.0		②おむつ・パッド交換の際、カーテンやスクリーンを使用する等してプライバシーに配慮したか。	
	削除	③ おむつ・パッドを尿漏れしない位置に装着したか。			13.9	6.3	10.1	39.0	92.2	92.2	94.1	95.3	82.5	88.4	93.3	95.7	0.0		－	○通過率が高いことを踏まえ削除
		④ おむつ・パッドを装着後、衣服、寝具等にしわがないように整えたか。			13.9	6.3	10.1	39.0	83.3	84.4	79.7	93.8	66.7	72.7	85.4	90.9	0.0		③おむつ・パッドを装着後、衣服、寝具等にしわがないように整えたか。	
		⑤ 排泄時刻、排泄物の量や性状、陰臀部の皮膚の異常について記録をしたか。			記録確認	16.6	6.8	14.4	40.0	86.3	91.6	79.8	92.1	63.6	75.0	92.6	92.6	0.0		④排泄時刻、排泄物の量・性状の異常について記録をしたか。

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

I. 基本介護技術の評価

4. 移乗・移動・体位変換

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考	
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3				レベル4
2	起居の介助ができる															○起居は入浴と別でもいいのではないかな。	1 起居の介助ができる			
		① 起きる前に、利用者に体調確認をしたか。	2 ・ 3	現認	14.0	5.3	8.7	46.2	74.3	76.9	70.0	91.2	58.2	68.8	72.9	80.9	0.0	①起きる前に、 利用者の疾病等に応じて、体調や顔色を確認 をしたか。	○低血糖状態や起立性低血圧を念頭に加筆。	
		② 全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こしたか。			24.0	13.1	22.6	54.4	75.5	77.1	77.6	66.0	46.0	72.5	74.8	83.4	0.0	○「上体がカーブを描くように」かわかりにくい。⇒原案でよいのではないかな。	②全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こしたか。	
		③ 一部介助が必要な利用者について、足を曲げてもらう、柵をつかんでもらう等利用者の残存機能を活かしながら起居の支援を行ったか。			26.5	26.7	23.1	48.5	77.0	78.1	73.8	71.7	53.8	72.0	72.3	87.9	0.0	③一部介助が必要な利用者について、足を曲げてもらう、柵をつかんでもらう等利用者の残存機能を活かしながら起居の支援を行ったか。		
		④ 利用者を側臥位にし、テコの原理を活用しながら、無理のない起居の介助を行ったか。			20.6	12.3	17.8	49.1	75.7	80.4	71.9	66.7	47.1	72.3	73.5	84.3	0.0	④利用者を側臥位にし、テコの原理を活用しながら、無理のない起居の介助を行ったか。		
3	一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる															○移乗は別の項目で括った方がよい。 ○片麻痺に限定し過ぎている。	2 一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	○片麻痺に限定しないチェック項目をつくることは難しいのではないかな(未実施率も高くない)。 ○「ベッドへの移乗」と相関が高いことから、訪問介護の未実施率が低い「車いすへの移乗」を存置。		
		① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。	2 ・ 3	現認	32.5	38.3	26.4	57.1	66.0	59.7	72.5	66.7	54.9	55.8	65.0	73.4	0.0	①介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。	○多義的であるが、例えば「車いすの安全点検をした上で、移乗介助を開始したか」よりも具体的に評価しやすいのではないかな。	
		② 利用者の健側かつ、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く位置に車いすを配置したか(ベッドの配置等で困難な場合は、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く範囲に配置したか)。③0.88、④0.85、⑤0.86、10-①0.76、10-②0.83、10-③0.81、10-④0.77、10-⑤0.75、10-⑥0.83			37.1	46.8	27.4	57.1	83.9	91.6	84.8	68.9	65.2	80.0	82.1	90.9	0.0	—		
整理		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。④0.88、⑤0.82、⑥0.87、10-①0.75、10-②0.84、10-③0.84、10-④0.77、10-⑤0.75、10-⑥0.82			38.1	47.8	28.8	58.1	83.6	84.8	88.5	63.6	59.6	77.0	84.5	91.9	0.0	—		
		④ 利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。⑤0.81、⑥0.84、10-②0.79、10-③0.79、10-④0.78、10-⑤0.72、10-⑥0.80			38.9	47.8	29.3	60.0	77.8	81.0	78.2	64.3	55.8	72.4	77.8	84.9	0.0	②利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。	○重要チェック項目として、②(旧④)を存置。	
		⑤ 利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。⑥0.86、10-②0.77、10-③0.77、10-④0.75、10-⑤0.81、10-⑥0.78			37.9	46.3	27.9	60.0	77.2	74.1	81.3	61.9	56.8	70.8	80.2	82.9	0.0	—		
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗することができたか。10-①0.76、10-②0.83、10-③0.81、10-④0.79、10-⑤0.79、10-⑥0.86			38.6	47.8	28.4	60.0	83.9	86.7	88.6	64.3	62.2	77.9	85.2	90.9	0.0	③利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗することができたか。		
		⑦ スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。			77.1	79.1	80.3	73.5	60.6	54.8	65.9	40.7	55.6	47.1	51.3	71.6	0.0	○福祉用具を使用していないため、評価が難しい。 ④スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って使用しておらず評価ができない場合は小項目評価の要件としない、	○福祉用具の使用が前提となっており、未実施率8割弱であるが、今後重要度が増すと予想されることから存置。	
10	一部介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる															○ベッド⇄車いす、は一つでもいいのではないかな。	—	○「車いすへの移乗」と相関が高いことから、訪問介護の未実施率が高い「ベッドへの移乗」を削除。		
		① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。	2 ・ 3	現認	34.6	37.8	27.4	64.4	88.4	87.2	93.4	63.9	84.8	80.6	89.1	92.4	0.0	—		
		② 利用者の健側がベッド側となるよう、かつ、移乗する際に活用できる柵等が手の届く位置に車いすを配置したか(ベッドの配置等で困難な場合は、移乗の際に活用できる柵等が手の届く範囲に車いすを配置したか)。③0.89、④0.85、⑥0.89			38.2	46.3	27.9	63.4	83.7	88.9	89.3	56.8	69.8	79.3	82.1	89.8	0.0	—		
整理		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。④0.86、⑥0.89			37.9	45.3	28.8	64.4	84.0	86.4	85.1	61.1	69.8	78.4	80.5	92.0	0.0	—		
		④ 利用者に健側の手で柵等をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。(柵を使用していない場合には、健側の手をベッドの健側の膝より遠い位置につけてもらい、患側を保護しながら立ち上がるよう、声かけ、介助を行ったか。)⑤0.86、⑥0.87			39.0	46.8	28.5	64.4	77.1	80.4	77.7	58.3	59.5	70.9	78.0	83.3	0.0	—		
		⑤ 利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。⑥0.88			39.0	45.3	28.5	64.4	75.7	75.5	77.0	58.3	61.9	60.9	80.7	82.7	0.0	—		
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、ベッドに座ることができたか。			38.7	46.3	28.0	64.4	83.3	87.0	87.2	61.1	59.5	77.9	86.5	89.2	0.0	—		
		⑦ スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。			78.0	78.6	81.6	82.2	62.7	55.8	63.2	50.0	62.5	56.0	48.7	71.3	0.0	—		

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

4 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる															○二人介助の評価がない。⇒訪問介護やユニットケアでは想定しにくいのではないかな。	3 全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	○「ベットへの移乗」と相関が高いことから、訪問介護の未実施率が低い「車いすへの移乗」を存置。
整理	① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。	24.6	12.9	20.5	64.8	70.1	63.9	80.0	51.6	57.4	63.8	65.9	78.0	0.0		①介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。	
	② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15～45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。③0.77、④0.85、⑤0.79、⑥0.83、11-②0.87、11-③0.74、11-④0.80、11-⑤0.73、11-⑥0.78	26.5	14.3	23.6	64.4	84.0	89.1	86.2	61.1	73.5	79.4	80.6	90.5	0.0		—	
	③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。④0.81、⑤0.80、⑥0.80、11-②0.75、11-③0.84、11-④0.76、11-⑤0.75、11-⑥0.74	27.9	15.3	27.4	64.4	76.4	76.2	76.8	58.3	59.2	70.8	73.4	84.3	0.0	○ベッドの高さを変えることができない場合がある。 ○立位も取れない方など、足が床に全く触れない場合に困った。	②移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。	
	④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。⑤0.86、⑥0.87、11-②0.79、11-③0.73、11-④0.85、11-⑤0.81、11-⑥0.83	26.9	15.3	24.0	64.4	84.1	89.5	84.8	52.8	71.4	80.4	81.8	90.0	0.0	○「ボディメカニクスを活用して」など表現に幅を持たせる方がよい。	③利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手をまわしてもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。	
	⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。⑥0.87、11-②0.76、11-③0.73、11-④0.81、11-⑤0.85、11-⑥0.81	27.9	17.2	24.5	65.0	78.7	80.4	82.2	54.3	61.7	73.7	75.0	86.9	0.0	○立位も取れない方など、足が床に全く触れない場合に困った。	—	
	⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、車いすに深く座らせることができたか。11-②0.81、11-③0.74、11-④0.84、11-⑤0.81、11-⑥0.87	27.3	15.3	24.5	64.4	84.4	86.6	87.9	58.3	70.8	81.3	80.6	91.2	0.0		④利用者の体をゆっくりと回転させ、車いすに深く座らせることができたか。	
	⑦ 移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。	65.9	57.6	70.2	79.2	76.5	76.7	82.3	47.6	78.6	71.1	66.2	83.8	0.0	○福祉用具を使用していないため、評価が難しい。	⑤移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。	○福祉用具の使用が前提となっており、未実施率8割弱であるが、今後重要度が増すと予想されることから存置。
11 全介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる														○二人介助の評価がない。⇒訪問介護やユニットケアでは想定しにくいのではないかな。	—	○「車いすへの移乗」と相関が高いことから、訪問介護の未実施率が高い「ベッドへの移乗」を削除。	
整理	① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。	26.8	14.9	20.5	68.5	89.9	92.7	92.3	53.6	90.7	83.9	86.8	94.2	0.0	○フットレストを外したりする。	—	
	② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15～45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。④0.87、⑥0.85	27.2	15.7	23.1	66.7	84.8	87.8	87.5	51.5	75.5	84.4	83.7	87.8	0.0	○全介助の場合はベッド等に平行にすることが多い。	—	
	③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整し、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。	29.7	20.1	25.0	67.7	78.4	82.8	76.9	56.3	69.6	74.5	77.8	82.3	0.0	○ベッドの高さを変えることのできない場合にはどうしたらよいか。 ○全介助の方で足がつかない方がいる。	—	
	④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。⑤0.88、⑥0.90	28.4	17.6	23.6	67.7	85.6	88.1	89.9	50.0	76.6	81.3	85.0	89.8	0.0	○「ボディメカニクスを活用して」など表現に幅を持たせる方がよい。	—	
	⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。⑥0.89	29.9	20.6	24.5	67.7	81.0	81.5	84.7	50.0	71.7	76.3	80.6	85.2	0.0	○全介助の方で足がつかない方がいる。	—	
	⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、ベッドに座らせることができたか。	29.1	18.1	24.0	68.7	85.7	88.0	89.9	45.2	74.5	79.8	85.5	90.7	0.0		—	
	⑦ 移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。	69.1	62.7	72.1	83.8	76.9	77.6	84.5	43.8	73.3	64.1	75.4	82.7	0.0		—	
5 車いすの移動ができる														○移動は入浴とは別の項目でいいのではないかな。	—		
削除	① 事故防止の観点から、利用者の足がフットレストに、健側の手がアームレスト(アームサポート)に乗っているか、患側の手が膝の上に乗っているかを確認し、安全を確保したか。	15.4	5.4	8.7	55.3	86.6	88.1	89.5	71.7	71.7	80.5	86.7	92.7	0.0		—	○通過率が9割前後、施設の場合は段差等を考慮する必要がないという意見を踏まえ、削除。
	② 段差や道幅、往来等を考慮しながら、安全な進路を選択して移動したか。	18.9	11.2	14.4	55.9	88.0	91.8	87.6	73.3	77.0	83.3	89.1	92.3	0.0	○施設の場合、段差や道幅を考慮する必要がない。	—	
6 杖歩行の介助ができる														○杖歩行介助の人はほぼいない	4 杖歩行の介助ができる	○未実施率は6割前後あるが、重要項目として存置。	
削除	① 利用者の歩く方向を確認しながら、段差等の安全に対するリスクを考慮し、予め利用者へ声かけをしたか。④0.87	51.9	58.8	53.8	63.6	78.7	75.6	82.3	69.4	55.9	71.4	81.2	86.0	0.0		—	○④と相関が高いことを踏まえ削除
	② 利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ったか。	55.6	59.3	58.2	68.7	66.1	56.8	70.1	64.5	46.9	56.9	65.4	75.6	0.0		①利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ったか。	
	③ 利用者に片まひがある場合、二動作歩行や三動作歩行の声かけを行えたか。	61.1	63.8	62.0	71.7	50.9	36.1	58.2	53.6	28.6	51.9	45.7	58.6	0.0	○片麻痺に限定し過ぎている。	②二動作歩行や三動作歩行の声かけを行えたか。	
	④ 急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行ったか。	52.7	58.8	55.3	63.6	76.8	73.2	78.5	75.0	46.9	77.9	69.4	87.2	0.0		③急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行ったか。	
4 体位変換ができる														○移乗やベッドの起居で括ればよいのではないかな。	5 体位変換ができる		
	① 利用者の膝を立て、テコの原理を活用しながら、体位変換したか。	20.1	11.2	13.0	50.0	70.7	69.4	71.3	73.1	48.3	61.1	75.5	77.2	0.0		①利用者の膝を立て、テコの原理を活用しながら、体位変換したか。	
	② 顔、腕、足の位置を確認し、腕の巻き込みなどに注意しながら、ベッド柵などにぶつることなく、利用者に痛みや傷を与えないように体位変換したか。	18.8	9.7	13.0	44.2	85.2	90.9	84.0	81.0	67.8	78.3	88.7	90.2	0.0		—	○通過率が8割から9割超と高いことから削除。
	③ 横向きになることができる人には自力で横になってもらったり、膝を自分で曲げられる人には自分で曲げてもらうなど、利用者の残存機能を活かしながら体位変換したか。	25.6	26.2	15.9	47.1	72.6	69.1	69.1	74.5	50.0	61.8	72.1	82.9	0.0		②横向きになることができる人には自力で横になってもらったり、膝を自分で曲げられる人には自分で曲げてもらうなど、利用者の残存機能を活かしながら体位変換したか。	
	④ ベッドの下の方にずり落ちた場合には姿勢を正すなど、身体に摩擦を与えないように体位変換したか。	23.3	12.1	16.8	49.5	77.3	79.0	76.3	73.1	58.5	70.8	76.7	84.4	0.0		③ベッドの下の方にずり落ちた場合には姿勢を正すなど、身体に摩擦を与えないように体位変換したか。	
	⑤ 体位変換後、クッションやタオルなどを使用し、安楽な体位保持への介助を行ったか。	21.0	13.6	13.5	49.0	85.1	88.8	84.4	75.5	60.7	81.6	85.3	92.1	0.0		④体位変換後、クッションやタオルなどを使用し、安楽な体位保持への介助を行ったか。	

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

I. 基本介護技術の評価

5. 状況の変化に応じた対応

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)					アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考		
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3	レベル4					
1	咳やむせこみに対応ができる	① 咳の強さ、顔色等の観察をしたか。	2 ② ・ ・ 3	状況の変化が起こった場合に現認	39.9	26.1	45.6	66.7	81.4	90.5	80.2	44.1	58.3	72.9	82.2	89.6	0.5	○訪問介護は、利用者によっては評価如何を長くしても「状況の変化」が発生しない場合が少なくないのではないか。	1 咳やむせこみに対応ができる			
		② 次の順で適切な対応ができたか。 ・強い咳をするように声かけをしたか。 ・背中を強く叩いたか(タッピング)。			49.9	33.3	51.6	77.0	64.5	69.5	64.0	30.4	41.7	46.0	62.8	76.8	0.3				○対応が細かすぎる。	②次の順で適切な対応ができたか。 ・強い咳をするように声かけをしたか。 ・背中を強く叩いたか(タッピング)。
		・(それでも改善しない場合)ハイムリッヒ法を実施したか。			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				○タッピングして改善しない場合は、医療職に連絡した方がよいのではないか。	-
		③ (上記の対応を行っても改善しない場合)医療職に連絡したか。			70.1	60.3	75.8	88.2	81.8	83.5	91.5	25.0	90.0	81.6	83.3	77.5	0.2				・(それでも改善しない場合)医療職に連絡したか。	○未実施率が高いことを踏まえ、②の最後に位置付け。
		④ 記録をしたか。			50.1	36.4	56.9	69.6	75.7	88.1	65.5	61.3	72.0	66.7	79.2	77.6	0.4				○記録を残すのみではなく、その後のカンファレンス等の対応も評価すべきではないか。⇒介護過程の展開において評価	③記録をしたか。
2	下痢の場合に対応ができる	① 便の観察をしたか(性状、量等)。②0.92、⑤0.86、⑥0.85	2 ② ・ ・ 3	評価期間中に状況の変化が起こった場合に現認	49.3	46.2	53.8	69.6	84.9	88.8	85.6	51.6	75.0	75.3	86.5	90.6	0.4	○「便秘」は多いが「下痢」は減多にならないのではないか。	-	○小項目として削除。		
		② 本人の様子を観察・確認したか(腹痛や吐き気の有無、下痢が続いているか否か等)。⑤0.85、⑥0.87			50.4	47.2	55.4	69.6	79.2	83.8	78.2	45.2	71.0	69.0	80.9	84.6	0.4					
		③ 原因の探索と確認をしたか。			52.1	47.2	57.9	70.6	52.3	53.3	51.2	33.3	32.3	40.9	47.3	64.4	0.2					
		④ (吐き気・嘔吐がなく、口からの摂取が可能な場合)水分・電解質を補給したか。			54.2	50.3	60.0	71.6	62.7	64.6	59.0	37.9	39.3	62.5	57.8	70.2	0.3					
		⑤ (腹痛の訴え、吐き気や嘔吐がある、下痢が続いている場合等)医療職に連絡したか。			55.1	50.8	56.9	81.4	85.2	84.7	94.0	36.8	75.9	85.7	86.0	86.1	0.4					
		⑥ 記録をしたか。			50.2	46.7	56.9	69.6	80.5	88.7	76.2	58.1	66.7	76.1	84.2	82.3	0.4				○記録を残すのみではなく、その後のカンファレンス等の対応も評価すべきではないか。⇒介護過程の展開において評価	
3	便・尿の異常(血便・血尿など)に対応ができる	① 便、尿の観察をしたか(色やにおい、血液が混入していないかどうか等)。②0.89	2 ② ・ ・ 3	状況の変化が起こった場合に現認	51.0	47.0	51.3	69.0	84.0	86.7	88.4	54.8	76.9	74.3	87.0	88.3	0.4	○現認が難しい。	2 便・尿の異常(血便・血尿、バイタル、ショック状態など)に対応ができる			
		② 本人の様子を観察・確認したか(バイタル、ショック状態等)。			53.1	47.5	54.4	71.0	75.7	74.0	80.9	58.6	58.3	67.1	76.8	82.4	0.4				①本人の様子(バイタル、ショック状態等)や便、尿(色やにおい、血液が混入していないかどうか等)を観察・確認したか。	
		③ 原因の探索と確認をしたか。			57.0	50.0	59.0	74.0	57.0	56.6	60.0	42.3	38.1	45.2	54.9	67.5	0.2				②原因の探索と確認をしたか。	
		④ (血液の混入、悪臭、バイタル値の異常やショック状態が観察された場合等)医療職に連絡したか。			60.1	54.0	57.4	84.0	84.8	85.7	94.0	25.0	80.0	80.6	89.4	84.0	0.4				③(血液の混入、悪臭、バイタル値の異常やショック状態が観察された場合等)医療職に連絡したか。	
		⑤ 記録をしたか。			54.4	50.8	53.6	72.0	78.5	83.5	77.8	60.7	69.6	76.2	80.9	79.0	0.4				○記録を残すのみではなく、その後のカンファレンス等の対応も評価すべきではないか。⇒介護過程の展開において評価	④記録をしたか。
4	皮膚の異常(炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍等)に対応ができる	① 皮膚の症状(大きさ、深さ、出血・浸出液・臭気の有無等)や本人の様子(痛みやかゆみの有無等)の観察をしたか。	2 ② ・ ・ 3	状況の変化が起こった場合に現認	36.7	30.8	42.1	54.5	85.3	87.6	91.2	76.1	66.7	84.1	86.7	88.9	0.5	○記録を残すのみではなく、その後のカンファレンス等の対応も評価すべきではないか。⇒介護過程の展開において評価	3 皮膚の異常(炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍等)に対応ができる			
		② 原因の模索と確認をしたか。			40.6	31.3	47.2	56.4	61.8	59.6	64.1	61.4	37.5	45.7	60.2	75.0	0.4				①皮膚の症状(大きさ、深さ、出血・浸出液・臭気の有無等)や本人の様子(痛みやかゆみの有無等)の観察をしたか。	
		③ (かゆがっていたり、炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍が観察された場合等)医療職に連絡したか。			44.0	33.8	43.6	80.2	87.1	87.8	92.7	50.0	82.4	87.8	85.7	88.5	0.5				②原因の模索と確認をしたか。	
		④ 記録をしたか。			41.0	33.8	46.7	56.4	78.0	85.5	71.2	77.3	64.5	74.7	79.2	80.8	0.5				③(かゆがっていたり、炎症、表皮剥離、水泡、潰瘍が観察された場合等)医療職に連絡したか。	
5	認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応できる	① いつもと違う行動が見られた利用者を観察し、脅威や不安を感じない(利用者の表情・行動にネガティブな変化がない)よう近づき、声をかける等対応し、利用者の行動や表情から不安・不快感等を軽減させることができたか。	2 ② ・ ・ 3	状況の変化が起こった場合に現認	31.4	17.2	37.9	62.0	54.5	53.7	55.4	52.6	31.9	35.7	59.1	66.1	0.4	○記録を残すのみではなく、その後のカンファレンス等の対応も評価すべきではないか。⇒介護過程の展開において評価	4 認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応できる			
		② いつもと違う行動が見られた利用者の表情、感情表現、行動などいつもと違う様子について確認し、なぜそのような行動をしたか、職員対応や本人の生活環境の変化等を確認し、記録したか。			33.1	19.2	38.5	64.0	47.8	42.5	51.7	47.2	19.0	33.3	46.8	60.7	0.3				①いつもと違う行動が見られた利用者を観察し、脅威や不安を感じない(利用者の表情・行動にネガティブな変化がない)よう近づき、声をかける等対応し、利用者の行動や表情から不安・不快感等を軽減させることができたか。	
		③ いつもと違う行動が見られた利用者がなぜそのような行動をしたかを、心身状況、生活歴、価値観・嗜好、家族・他者との関係、家族から収集した情報等を確認し、記録したか。			35.5	21.2	41.5	65.0	42.2	35.3	42.1	45.7	16.7	21.4	42.1	56.5	0.3				②いつもと違う行動が見られた利用者の表情、感情表現、行動などいつもと違う様子について確認し、なぜそのような行動をしたか、職員対応や本人の生活環境の変化等を確認し、記録したか。	

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

II. 利用者視点での評価

1. 利用者・家族とのコミュニケーション

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)					アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3	レベル4			
1	相談・苦情対応ができる																○対応は相談員または上司が行っている。	1 相談・苦情対応ができる		
		① (自分で対応できない場合)相談・苦情の内容について、上司に報告し、対応を依頼することができたか。	2②・3・4	対応すべき事態が起こった場合に現認	54.1	50.9	59.9	57.4	73.6	73.4	74.1	59.6	50.0	63.6	71.1	83.0	87.8		①(自分で対応できない場合)相談・苦情の内容について、上司に報告し、対応を依頼することができたか。	
		② 相談・苦情を受ける際、十分に事情や言い分を聞き、利用者や家族の感情を害さないように対応できたか。			57.3	55.4	62.3	61.5	59.0	61.6	61.3	51.1	32.1	45.9	51.2	71.0	79.2	○その場で処理することはないため、現認の評価は難しい。 ○アセッサーはその場にはいないのでわからない。		
		③ 相談・苦情の内容及び関連情報を正確に把握・収集し、わかりやすく整理することができたか。	3.4	記録確認	54.9	49.5	66.3	54.7	61.9	61.1	59.4	54.2	0.0	0.2	0.0	59.0	68.0		③相談・苦情の内容及び関連情報を正確に把握・収集し、わかりやすく整理することができたか。	
		④ 利用者や家族と、相談に対する解決策を考える場を持ったか。⑥0.86			62.5	59.8	74.7	56.6	49.6	46.5	50.0	47.8	0.0	0.2	0.0	43.8	58.3		—	
		⑤ 苦情の要因を特定し、解決策及び再発防止策を考えることができたか。			59.8	57.4	70.5	52.8	53.8	50.0	57.1	48.0	0.0	0.2	0.0	47.2	65.3		④苦情の要因を特定し、解決策及び再発防止策を考えることができたか。	
		⑥ 苦情に対する解決策及び再発防止策を利用者や家族に説明し、納得してもらえたか。			66.9	66.7	74.7	60.4	44.1	38.9	50.0	38.1	0.0	0.1	0.0	38.0	52.4		⑤苦情に対する解決策及び再発防止策を利用者や家族に説明し、納得してもらえたか。	
⑦ 相談・苦情に対する解決策について、チームメンバーと共有し、解決策が継続的に実践されるよう働きかけを行ったか。	55.9	50.9			69.5	52.8	62.4	62.3	55.2	56.0	0.0	0.2	0.0	59.0	69.2		⑥相談・苦情に対する解決策について、チームメンバーと共有し、解決策が継続的に実践されるよう働きかけを行ったか。			
2	利用者特性に応じたコミュニケーションができる																2 利用者特性に応じたコミュニケーションができる			
削除		① 利用者や家族との間で、態度や言葉遣いによるトラブルがなかったか。	2②・3・4	日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング。利用者意見により補足)	11.5	9.5	11.8	10.6	84.8	86.6	85.6	79.1	71.0	80.5	82.7	91.4	89.5		①家族に利用者の日頃の様子などの情報を積極的に伝えることができたか。	○何かを積極的に行ったかを評価する項目に修正した方がよいという意見を踏まえ、「家族とのコミュニケーション」を追加。
		② 利用者のニーズや思いを理解し、場の雰囲気合った配慮ある言動を示しているか。			5.9	4.1	7.5	8.1	66.9	69.0	62.8	72.6	35.9	55.6	65.4	74.9	89.7		②利用者が興味関心を持てるような話題を取り上げ、コミュニケーションをとったか。	○「ニーズや思いを理解」「場の雰囲気にあった配慮ある言動」について具体的に、修正。
		③ 認知症の利用者に対し、その特性に応じた声かけやジェスチャー、表情等により、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。			9.9	5.0	11.8	21.1	65.7	69.2	62.6	66.0	40.3	50.8	64.2	75.2	84.0	○属性別にチェック項目を分ける必要はないのではないか。⇒原案でよいのではないか。	③利用者の話に耳を貸し、意思表示を把握し、理解することができたか。	○介護職の専門的能力を評価する項目を検討し追加。
		④ 視覚障害の利用者に対し、その特性に応じた声かけをし、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。			37.2	23.9	38.2	57.7	73.4	75.7	70.2	65.4	54.8	58.9	74.6	81.4	87.0	○属性別にチェック項目を分ける必要はないのではないか。⇒原案でよいのではないか。	④認知症の利用者に対し、その特性に応じた声かけやジェスチャー、表情等により、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。	
		⑤ 聴覚障害・難聴の利用者に対し、その特性に応じた声かけやジェスチャー、表情等により、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。			27.3	15.8	26.9	55.3	71.7	73.8	65.2	72.7	51.0	59.0	71.9	79.7	85.2	○属性別にチェック項目を分ける必要はないのではないか。⇒原案でよいのではないか。	⑤視覚障害の利用者に対し、その特性に応じた声かけをし、利用者の意向を確認し、介護の内容を伝えることができたか。	

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

II. 利用者視点での評価

2. 介護過程の展開

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)					アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3	レベル4			
1		利用者に関する情報を収集できる																○サービス提供責任者でない計画書等の帳簿に係る業務は行わないので評価できない(以下同じ)。⇒未実施率は低いことから、全体を残してよいのではない。	1 利用者に関する情報を収集できる	
	戻る	① 利用者や家族の生活に対する意向を把握できたか。②0.93、③0.85			8.2	8.3	13.8	1.9	75.5	77.8	67.9	88.5	0.0	0.0	0.0	72.5	86.5		①利用者や家族の生活に対する意向を把握できたか。	
		② 利用者の心身機能・身体状況、健康状態を把握できたか。③0.87			8.2	8.3	13.8	1.9	80.7	83.8	75.3	86.5	0.0	0.0	0.0	78.9	87.8		—	
		利用者の「できる行為・活動」(実際には行う力を持っており、訓練や適切な支援によってできるようになること)と「している行為・活動」(毎日の生活の中で特に意識したり、努力したりすることなく行っていること)について、それぞれ把握できたか。	3・4	直近の介護過程の記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	9.3	9.3	13.8	3.8	70.2	72.4	60.5	76.5	0.0	0.0	0.0	67.2	80.8		②利用者の心身機能・身体状況、利用者の「できる行為・活動」(実際には行う力を持っており、訓練や適切な支援によってできるようになること)と「している行為・活動」(毎日の生活の中で特に意識したり、努力したりすることなく行っていること)、健康状態、について、それぞれ把握できたか。	
	戻る	④ 利用者を取りまく物的環境(食品、薬、福祉用具等)、人的環境(家族、友人等の支援や態度)、利用している制度について把握できたか。⑤0.86			9.9	10.2	14.9	3.8	55.9	52.6	42.5	72.5	0.0	0.0	0.0	52.1	68.5		③利用者を取りまく物的環境(食品、薬、福祉用具等)、人的環境(家族、友人等の支援や態度)、人生や生活の特別な背景(ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等)利用している制度、利用者の人生や生活の特別な背景について把握できたか。	
		⑤ 利用者の人生や生活の特別な背景(ライフスタイル、習慣、生育歴、教育歴、職業歴、行動様式、価値観等)について把握できたか。			9.6	10.2	14.9	1.9	53.3	49.5	42.5	67.3	0.0	0.0	0.0	50.2	63.0		—	
2		個別介護計画を立案できる																	2 個別介護計画を立案できる	
		① 得られた情報を整理、統合することができたか。②相関がみられるが必要な能力としては別ものと考えられるのでくらない		直近の介護過程の記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	20.3	11.1	20.2	30.2	70.3	72.9	64.0	73.0	0.0	0.0	0.0	66.2	83.1		①得られた情報を整理、統合することができたか。	
		② 課題を明確にすることができたか。③0.86			21.5	11.1	20.2	28.3	65.5	64.6	61.3	55.3	0.0	0.0	0.0	60.6	80.0		②課題を明確にすることができたか。	
	戻る	個別介護計画において、利用者の生活習慣や価値観を尊重する目標を設定し、それを達成するための具体的な支援内容(担当者、頻度、期間を含む)を設定できたか。④0.90	3・4	直近の介護過程の記録確認・ヒアリング	25.6	15.7	22.3	35.8	64.8	67.0	63.0	55.9	0.0	0.0	0.0	60.3	78.5		③個別介護計画において、利用者の生活習慣や価値観を尊重する目標、心身の機能を維持・改善するとともに、自立的な生活を支援する目標を設定し、それを達成するための具体的な支援内容(担当者、頻度、期間を含む)を設定できたか。	
		④ 個別介護計画において、「できる行為・活動」をできるだけしてもらうよう、利用者の心身の機能を維持・改善するとともに、自立的な生活を支援する目標を設定し、それを達成するための具体的な支援内容(担当者、頻度、期間を含む)を設定できたか。			25.6	15.7	22.3	35.8	62.1	61.5	60.3	58.8	0.0	0.0	0.0	58.2	73.8		—	
		⑤ 個別介護計画を利用者や家族に説明し、同意が得られたか。		直近の介護過程の記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	41.4	41.7	38.3	41.5	77.4	74.6	81.0	77.4	0.0	0.0	0.0	74.1	87.5		④個別介護計画を利用者や家族に説明し、同意が得られたか。	
3		個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる																	3 個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	
		① ケアカンファレンス等の場において、個別介護計画の目標、支援内容及びそこに関わるスタッフの役割等についてチームメンバーに説明して共有し、プラン内容が継続的に実践される働きかけを行ったか。		直近の介護過程の記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	25.4	17.6	23.4	34.0	70.2	73.0	61.1	68.6	0.0	0.0	0.0	67.9	77.6		①ケアカンファレンス等の場において、個別介護計画の目標、支援内容及びそこに関わるスタッフの役割等についてチームメンバーに説明して共有し、プラン内容が継続的に実践される働きかけを行ったか。	
		② チームにおける個別介護計画の実施状況を把握したか。4-①0.85			24.5	17.6	23.4	30.2	73.5	74.2	69.4	67.6	0.0	0.0	0.0	71.1	81.8		②チームにおける個別介護計画の実施状況を把握したか。	
		③ 個別介護計画に基づく支援に対する利用者・家族の満足度や意向を把握したか。			28.2	26.9	26.6	30.2	59.2	55.7	52.2	64.9	0.0	0.0	0.0	57.0	65.6		③個別介護計画に基づく支援に対する利用者・家族の満足度や意向を把握したか。	
	戻る	④ 個別介護計画に基づく支援による利用者の心身の状況の変化を把握したか。⑤0.88			23.4	15.7	24.5	30.2	68.4	67.0	57.7	67.6	0.0	0.0	0.0	65.3	77.9		④個別介護計画に基づく支援による利用者の心身の状況や利用者を取り巻く物的環境、人的環境の変化を把握したか。	
		⑤ 利用者を取り巻く環境の変化を把握したか。			25.1	16.7	28.7	28.3	61.9	58.9	50.7	63.2	0.0	0.0	0.0	58.9	70.6		—	
4		個別介護計画の評価ができる																	4 個別介護計画の評価ができる	
		① 個別介護計画の目標に対する到達度を評価したか。		直近の介護過程の記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	26.4	15.0	29.0	40.4	76.8	79.1	71.2	74.2	0.0	0.0	0.0	75.3	82.8		①個別介護計画の目標に対する到達度を評価したか。	
		② ①及び個別介護計画の内容に対する利用者・家族の満足度や意向を把握したか。			30.7	27.1	32.3	36.5	60.7	53.8	58.7	66.7	0.0	0.0	0.0	57.9	68.9		②個別介護計画の内容に対する利用者・家族の満足度や意向を把握したか。	
		③ 個別介護計画の見直しにあたっての代替案を設定したか。④0.87			32.4	27.1	32.3	44.2	62.2	65.4	52.4	58.6	0.0	0.0	0.0	57.9	74.2		③個別介護計画の見直しにあたっての代替案を設定したか。	
	削除	④ 個別介護計画の評価内容や代替案について、記録を行ったか。			32.1	24.8	35.5	42.3	69.2	69.6	65.0	60.0	0.0	0.0	0.0	68.0	73.3		—	

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

II. 利用者視点での評価

3. 感染症対策・衛生管理

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考	
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3				レベル4
2	嘔吐物、汚物処理の対応ができる	① 利用者の血液、体液、分泌物、排泄物(汗を除く)、障害のある皮膚、粘膜に素手で接触した場合、手洗い及び消毒をしたか。②0.90	2②・3・4	対応すべき事態が起こった場合に現認	41.8	30.2	43.8	61.5	87.5	89.7	90.7	59.6	78.6	86.0	86.4	90.0	92.0	1 感染症予防対策ができる	○感染症予防対策の重要性に鑑み、加筆(追加でいただいたご意見を踏まえ修正)。 ○訪問介護を考慮し、「感染症に罹患した利用者の部屋や」を削除するとともに、「嘔吐物等」を具体化。	
		削除 ② 利用者の血液、体液、排泄物(汗を除く)、嘔吐物を処理する際、新しい手袋をしたか。			41.0	25.7	45.2	61.5	87.0	91.5	89.6	59.6	87.1	82.6	85.5	89.5	92.2			—
		削除 ③ 利用者の嘔吐があった場合等必要に応じて、アルコール消毒を行い、感染予防着、ゴーグル、手袋などを着用し対応したか。④0.85			57.8	44.6	64.8	73.0	77.7	82.9	83.8	33.3	72.2	70.7	75.6	82.1	85.3			—
		④ 感染症に罹患した利用者の部屋や嘔吐物等がある場所の消毒を確実に行ったか。			61.4	49.5	71.4	74.6	76.3	83.0	81.7	22.6	58.3	61.8	78.4	82.1	84.8			③嘔吐物、排泄物、血液等の感染源になるものがある場所の消毒を確実に行ったか。
1	感染症に対する標準予防策や自己管理を講じることができる	① 利用者に、どのような感染症の既往があるか確認できているか。	2②・3・4	日頃の対応を観察	8.7	3.2	12.9	16.3	59.2	62.3	54.1	73.8	27.3	40.6	56.5	69.7	87.5	④利用者に、どのような感染症の既往があるか確認できているか。	○通過率が約8割から9割超であることを踏まえ、削除。	
		② 自分が風邪気味の際にはマスクを着用したか。			15.3	10.8	17.2	31.7	93.6	93.9	96.5	85.7	89.3	92.7	95.6	94.8	92.3			—
		③ 爪は短くしているか。			6.2	2.3	11.0	14.6	94.1	94.5	95.2	90.5	92.6	92.5	94.7	95.7	93.3			—
		④ 自分が感染症にかかったと思われるときには速やかに医療機関を受診したか。			36.9	28.4	51.2	45.5	89.5	88.7	90.2	79.1	84.2	85.5	89.9	91.5	94.5			○「医療機関を受診するか」の方がよいのではないか。
3	感染症発生時に対応できる	① 感染症を疑われる利用者や罹患した利用者に対し、マスクの着用を促す、医療職の指示に従い他の利用者と別室に待機させる等の対応をとったか。②0.89、③0.87、④0.85	2②・3・4		63.6	53.2	71.3	79.5	75.2	77.9	80.0	20.0	61.1	71.7	69.7	80.6	83.9	2 感染症発生時に対応できる	○未実施率が一定程度高いが、重要項目であることを踏まえ存置(インフルエンザやノロウイルス等を想定。疥癬等利用者特定の場合は介護過程の展開で評価)。 ○4つとも相関が高いことを踏まえ、通過率の低い2項目を存置。	
		削除 ② 速やかに医療職に報告したか。③0.90、④0.87			64.2	52.3	71.6	84.4	81.8	81.1	89.8	26.3	70.6	80.0	79.4	85.2	87.1			○評価期間を長くしても発生せず、評価できない場合があるのではないか。
		削除 ③ マスク、感染予防着、手袋を着用し対処したか。④0.88			62.4	52.3	69.4	77.0	80.6	84.0	85.9	28.6	70.6	73.5	75.7	87.5	86.7			○「医療機関を受診するか」の方がよいのではないか。
		④ 利用者の状態、感染症発生状況を正確に記録したか。			64.3	52.9	74.4	76.9	76.8	80.8	73.6	35.7	71.4	66.7	70.1	84.1	84.4			○訪問介護では、家族と別室にすることはしない。 ①感染症を疑われる利用者や罹患した利用者に対応する場合に、マスクの着用、ケア前後の手洗い・消毒等感染拡大防止のための対応をとったか。 ②利用者の状態、感染症発生状況を正確に記録したか。

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

II. 利用者視点での評価

6. 緊急時対応

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2①	レベル2②	レベル3			
1		緊急性に応じた対応ができる														○なかなか想定できない。	—	○未実施率が高いことを踏まえ削除	
		① 利用者が倒れていた場合、意識、呼吸、脈、顔色を確認したか。②0.93		対応すべき事象が起こった場合に現認	74.0	67.1	84.8	77.9	66.8	74.0	75.0	22.2	45.5	64.5	65.0	71.2	82.6	—	
		② 利用者が倒れていた場合、痛みや傷を確認したか。		対応すべき事象が起こった場合に現認	74.0	68.0	84.8	77.9	70.4	77.5	81.3	25.9	45.5	77.4	66.1	73.1	87.0	—	
		③ 利用者が倒れていた場合、気道を確保したか。		対応すべき事象が起こった場合に現認	79.7	75.2	88.6	79.5	45.1	58.2	37.5	16.0	33.3	40.0	33.3	50.0	83.3	—	
		④ 利用者が倒れていた場合、毛布等により保温したか。		対応すべき事象が起こった場合に現認	79.4	77.4	88.2	78.7	41.9	56.0	28.0	19.2	20.0	42.3	34.6	42.2	82.4	—	
2		緊急事態発生時に、医療職や上司に連絡し、指示を仰ぐことができる														○常勤者でない報告書の記入は行っておらず、非常勤は評価できない。	—	○未実施率が高いことを踏まえ削除	
		① 緊急事態発生時の事業所・施設内のルール上第一情報を報告すべき者に対して、第一報を入れることができたか。②0.92		対応すべき事象が起こった場合に現認(必要に応じ記録確認)	71.8	64.4	80.1	77.0	70.0	73.4	76.2	39.3	46.2	62.5	64.1	79.2	88.9	—	
		② 利用者の状態に係る情報を収集し、医療職や上司に伝えることができるか。		対応すべき事象が起こった場合に現認(必要に応じ記録確認)	71.2	63.5	80.6	78.7	69.1	71.6	80.5	34.6	46.2	55.6	69.8	75.3	88.9	—	
3		緊急事態発生時に家族への連絡ができる															—	○未実施率が高いことを踏まえ削除。	
		① 利用者の緊急連絡手順に則り、第一連絡先の家族に連絡することができたか。②0.85		対応すべき事象が起こった場合に現認(必要に応じ記録確認)	82.0	77.4	88.6	81.1	55.6	58.0	75.0	26.1	20.0	27.8	54.8	61.9	82.6	—	
		② 発生した緊急事態について、家族に対し、冷静に説明できたか。		対応した場合に現認(必要に応じ記録確認)	81.4	77.0	90.0	80.3	45.7	49.0	76.2	20.8	25.0	25.0	32.6	54.3	78.3	—	

II. 利用者視点での評価

7. 終末期ケア

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合 (未実施を除く)				アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	実施状況も見つつ、6か月程度の評価期間をとっても終末期ケアを行う機会がなく評価できなかった場合は、小項目等を評価せず、レベル認定の要件とはしないことも検討。	備考
					全体	特養	老健	訪問介	全体	特養	老健	訪問介	レベル1	レベル2①	レベル2②	レベル3				
1		終末期の利用者や家族の状況を把握できる														○全職員が関わるものではなく評価しにくい(以下同じ)。	1 終末期の利用者や家族の状況を把握できる	○レベル1でもチームの一員としては関わることがあると思われるが、能力評価としてはレベル3以上とする。		
		① 利用者のADL、余命、告知・無告知の把握をしているか。	3・4	対応すべき事象が起こった場合に現認(必要に応じ記録確認)	67.0	52.7	73.0	80.3	61.7	67.6	61.4	41.7	47.1	47.7	54.2	73.3	77.1			
		② 利用者・家族の看取りの場所の希望について把握をしているか。		66.5	49.1	73.5	82.0	59.5	61.9	67.9	31.8	35.3	48.8	50.0	72.2	75.0				
		③ 利用者の自己決定や家族の希望を最大限尊重しているか。		66.2	49.1	73.9	82.0	59.1	63.7	54.5	36.4	43.8	37.2	52.6	73.1	75.0				
2		終末期に医療機関との連携ができる															2 終末期に医療機関または医療職との連携ができる			
		① 利用者の痛みやそのほかの不快感な身体症状の変化があった場合に備え、その際の対処について、あらかじめ医療機関と打ち合わせているか。	3・4	対応すべき事象が起こった場合に現認(必要に応じ記録確認)	75.6	65.7	85.3	80.8	64.0	70.3	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0	61.8	69.2			
		② 利用者の痛みやそのほかの不快感な身体症状の変化をとらえ、医療機関に連絡したか。		78.8	74.1	88.4	78.8	66.7	75.0	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0	66.7	68.0		○未実施率が高いことを踏まえ、「医療機関」を「医療機関または医療職」に連絡したか。		
	③ 利用者の状態の変化を正確に記録し、他職種と共有したか。		記録確認	68.7	53.4	76.2	81.0	69.2	79.6	58.0	30.4	64.3	68.3	61.8	76.9	75.8				

○未実施率70%以上、通過率90%以上の項目は濃い網掛け
 ○「チェック項目の原案」欄内の青字は、相関が高い(0.85以上)項目及びその相関係数

Ⅲ. 地域包括ケアシステム & リーダーシップ

2 リーダーシップ

No	小項目	チェック項目の原案	レベル感	評価方法	未実施率				通過率 (未実施を除く)				「A」となった被評価者の割合					アセッサー等の意見	チェック項目の修正案	備考
					全体	特養	老健	訪問介護	全体	特養	老健	訪問介護	レベル1	レベル2 ①	レベル2 ②	レベル3	レベル4			
1		現場で適切な技術指導ができる																1 現場で適切な技術指導ができる		
	①	個々のスキルや仕事に対する取組みの意識を把握し、スタッフのレベルやキャリア・プランに応じて育成計画を立案して指導しているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて記録確認、被評価者へのヒアリング)	19.5	26.1	12.5	17.4	36.4	23.5	35.7	57.9	0.0	0.0	0.5	0.7	28.4		①個々のスキルや仕事に対する取組みの意識を把握し、スタッフのレベルやキャリア・プランに応じて育成計画を立案して指導しているか。	
	②	介護の現場で、スタッフのスキルや利用者とのコミュニケーションの取り方等について、具体的な指導・助言を行っているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	6.1	4.3	6.3	13.0	55.8	63.6	46.7	65.0	0.0	0.0	0.0	0.7	51.9		②介護の現場で、スタッフのスキルや利用者とのコミュニケーションの取り方等について、具体的な指導・助言を行っているか。	
	③	利用者の不自信やスタッフのモチベーションの低下を招かないように、介護の現場でスタッフに指導・助言を行う場合は、利用者の前でスタッフを注意したり叱ったりせず、後で声を掛けるなどしているか。	4	日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	3.7	4.3	0.0	8.7	65.8	72.7	56.3	76.2	0.0	0.0	0.0	0.7	63.0		③利用者の不自信やスタッフのモチベーションの低下を招かないように、介護の現場でスタッフに指導・助言を行う場合は、利用者の前でスタッフを注意したり叱ったりせず、後で声を掛けるなどしているか。	
	④	スタッフに指導した後は、振り返りを行ない、スタッフの疑問の解消や注意すべき点等について確認しているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	4.9	4.3	6.3	8.7	52.6	45.5	53.3	52.4	0.0	0.0	0.0	0.7	49.4		④スタッフに指導した後は、振り返りを行ない、スタッフの疑問の解消や注意すべき点等について確認しているか。	
	⑤	自己のスキルアップのために、研修を受講する等により研鑽しているか。		ヒアリング	13.4	13.0	25.0	13.0	70.4	75.0	75.0	65.0	0.0	0.0	0.0	0.7	60.5		⑤自己のスキルアップのために、研修を受講する等により研鑽しているか。	
2		ローテーション(シフト)を組むことができる																—	○特定の役職の者しか行わない施設があるが、重要項目であることから、残す。ただし、小項目にチェック項目1つとなることから、小項目3に統合。	
	①	スタッフの休暇予定を把握し、誤り無くローテーション(シフト)を組むことができるか。②0.87		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	31.7	34.8	37.5	21.7	66.1	86.7	80.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.7	44.4	○ローテーションは施設長が組んでいる。	—	
	②	利用者のキャンセルやスタッフの欠勤等が生じた場合、遅滞なく、ローテーション(シフト)の変更を行っているか。	4	日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	15.9	13.0	12.5	17.4	79.7	100.0	78.6	73.7	0.0	0.0	0.0	0.7	66.7	—	—	
3		部下の業務支援を適切に行っている																2 部下の業務支援を適切に行っている		
			4	日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)														①スタッフの休暇予定や利用者のキャンセルを把握し、誤り無くローテーション(シフト)を組むことができるか。	施設において、特定の役職者しか行っておらず評価ができない場合は小項目評価の要件としない。	
	①	事業所・施設内において、研修、勉強会、ミーティング、ケース会議等を定期的に開催しているか。		記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	13.4	4.3	18.8	21.7	73.2	72.7	69.2	72.2	0.0	0.0	0.0	0.7	63.0		②事業所・施設内において、研修、勉強会、ミーティング、ケース会議等を定期的に開催しているか。	
	②	各スタッフとの面談の機会をつくり、スタッフの要望や悩みを聞き取り、把握・助言をしているか。	4	日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	18.3	13.0	25.0	21.7	59.7	60.0	41.7	61.1	0.0	0.0	0.0	0.7	48.1		③各スタッフとの面談の機会をつくり、スタッフの要望や悩みを聞き取り、把握・助言をしているか。	
	③	事業所・施設内外の研修、勉強会等について、個別に声を掛ける等してスタッフに参加させているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	18.3	8.7	25.0	26.1	44.8	52.4	25.0	47.1	0.0	0.0	0.0	0.7	35.8		④事業所・施設内外の研修、勉強会等について、個別に声を掛ける等してスタッフに参加させているか。	
	④	スタッフの体調を把握するために声かけや観察を行なっているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	11.0	4.3	12.5	26.1	75.3	81.8	64.3	76.5	0.0	0.0	0.0	0.7	66.7		⑤スタッフの体調を把握するために声かけや観察を行なっているか。	
4		評価者として適切に評価できる																3 評価者として適切に評価できる		
	①	評価者講習を受けたか。		記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	72.0	69.6	81.3	65.2	52.2	100.0	66.7	25.0	0.0	0.0	1.0	0.0	14.8		—	○当面はチェック項目としない。
	②	期首にスタッフと面談の機会を持ち、スタッフの希望する目標、上司として期待する目標を相互に確認した上で、スタッフとともにその期の目標を設定しているか。③0.97 ④0.89		記録確認(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	56.1	52.2	62.5	56.5	41.7	54.5	50.0	40.0	0.0	0.0	1.0	0.0	18.5		①期首にスタッフと面談の機会を持ち、スタッフの希望する目標、上司として期待する目標を相互に確認した上で、スタッフとともにその期の目標を設定しているか。	
	削除 ③	期末にスタッフとの面談を行い、目標に対するスタッフの自己評価を踏まえた上で評価しているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	61.0	56.5	68.8	60.9	43.8	60.0	60.0	33.3	0.0	0.0	1.0	0.0	17.3			
	④	自己の利益や好みによらず、客観的評価基準に基づきスタッフを評価できているか。		日頃の対応を観察(必要に応じて被評価者へのヒアリング)	52.4	43.5	56.3	56.5	71.8	92.3	71.4	60.0	0.0	0.0	1.5	0.0	34.6		②自己の利益や好みによらず、客観的評価基準に基づきスタッフを評価できているか。	